

2014年 1月10日

みらいの扉

高等特別支援学校 支援部 第54号



2014年の スタートです！

あけましておめでとうございます。年末年始、いかがお過ごしでしたでしょうか。お天気に恵まれ、穏やかな年明けとなりました。

今年は午年。我が家は私の父、私、そして娘が3代にわたり「年男・年女」です。(ああ…歳がばれる…)次の午年を3人揃って元気に迎えらる保障はありません。めでたい今年をよい年にするぞ〜！と誓ったお正月でした。

学校の3学期は目まぐるしく過ぎていきます。校内はすでに文化祭モード。3週間後の文化祭本番に向けて、本格始動です！保護者の方々も、楽しみにして下さいね。

ヒトは 人の間で ひと となる

年末年始、たくさんの親戚と会い、たくさん話をしました。世の中いろんな人がいて、いろんな仕事があり、いろんなことが起こるわけですが、どんな立場の人のどんな話にも共通することがあり、何かと考えさせられた冬休みでした。

まずは「挨拶」の話題。年金暮らしの老夫婦、IT企

業戦士、銀行員、専業主婦、寝たきりの難病者、その介護者、お寺の住職…いろんな人の話を聞く機会がありました。



その中で、「挨拶ができん人間が何を言っても、相手を説得はできん！」という話がありました。言われてみたら確かにそうだなあ…普段挨拶をしてくれないような相手から、怒られたとしてもなんだか腑に落ちないし、助言をされたとしてもどこか違和感があるし、何かを頼まれたとしてもちょっと腰が引けてしまう…人間関係って、そんなものなんだな、と妙に納得させられた言葉でした。

逆に言えば、挨拶を普段からできる人は、基本的に人に安心感を与え信頼関係を築きやすく、周囲の協力が集まりやすいので、多少のトラブルならば理解をしてくれる人も助けてくれる人も多いという傾向があるようです。

学校でも「挨拶をしなさい」とよく指導していますが、挨拶の大切さを教えてくれているのは卒業生の皆さんです。「挨拶力」が、社会の中で自分の居場所を作り、周囲と関係を築き、いざというときに自分を守る盾となりうるのだということを卒業生の皆さんが教えてくれるので、本校では社会人としての重要なアイテムとして「挨拶力」を掲げています。



さて、もう一つ。「他人の気持ちを理解しようとしないう人間が増えてきた」という話題。その真偽はさておき、「他人の気持ちを理解する」という精神活動は、人間特有のものだと思います。しかし、生まれたときからその力が備わっているわけでは決してありません。では、私たちは、いつ、どうやって、その力を手に入れているのでしょうか。

あくまで一般的な「成長の目安」ですが…

乳児期。自分一人では何もできない未熟な状態で、快・不快を態度で示し援助を求めます。援助が与えられることで安心感を得て、環境への信頼感を持ちます。

幼児期。いろいろなものを与えてもらい、守ってもらいながら、徐々に行動範囲を広げ、自立の芽を育みます。5歳頃の「万能感」(大人の目から見れば決して「万能」

ではないのですが)は、生育上重要な感覚です。また、言葉を覚えることによって言葉で物事を理解・表現する力や気持ちをコントロールする力が育ち始めます。

児童期(小学校)。規律正しい集団生活と学習活動の中で、基本的な学習を身につけながら、友達との人間関係に揉まれ、知識だけではない「生きる力」を伸ばします。小学校段階で、主観性から客観性、具体性から抽象性、自己主張から他者理解、といった成長が見られます。

思春期(中学校、高校)。小学校で身につけた基本的な「生きる力」をフル活用し、磨きをかけます。これまで親や教師に与えられていた「既成の枠組み」を一度破壊して、自分で組み立て直ししながらアイデンティティを確立していきます。



こうしてみると、「他者を理解する」「人の心情をおもんぱかる」「場面を客観的に把握する」といった力の基礎は、小学校時代に培われるようです。ただし、これも、放っておいて培われる力ではありません。それなりのトラブル、ケンカ、誤解、失敗、そんな具体的な刺激と、その発達段階に合致した教育や支援があってこそ育成されるものです。他者とのトラブルが全くない世界では、他者を理解する必要もありませんから、その能力が衰えるのは当たり前です。

最近、社会全般的な傾向として、幼少期から友達同士のトラブルをとことん避けさせる保護者の方が増えてきています。それは、子どもたちが成長し社会で生き抜いていく上で、本当に「有益」なのでしょうか。

失敗しながらも周囲の協力を得て何かを学び、成長できる環境が「学校」です。社会に出た後ももちろん成長はしますが、学校にいる間にどれだけ具体的な体験を積んできたかが、社会でも活かされます。



「挨拶をする」「トラブルや失敗を恐れない」…残された学校生活を、自分自身の成長の場としてフル活用して欲しいと願います。(聳城)